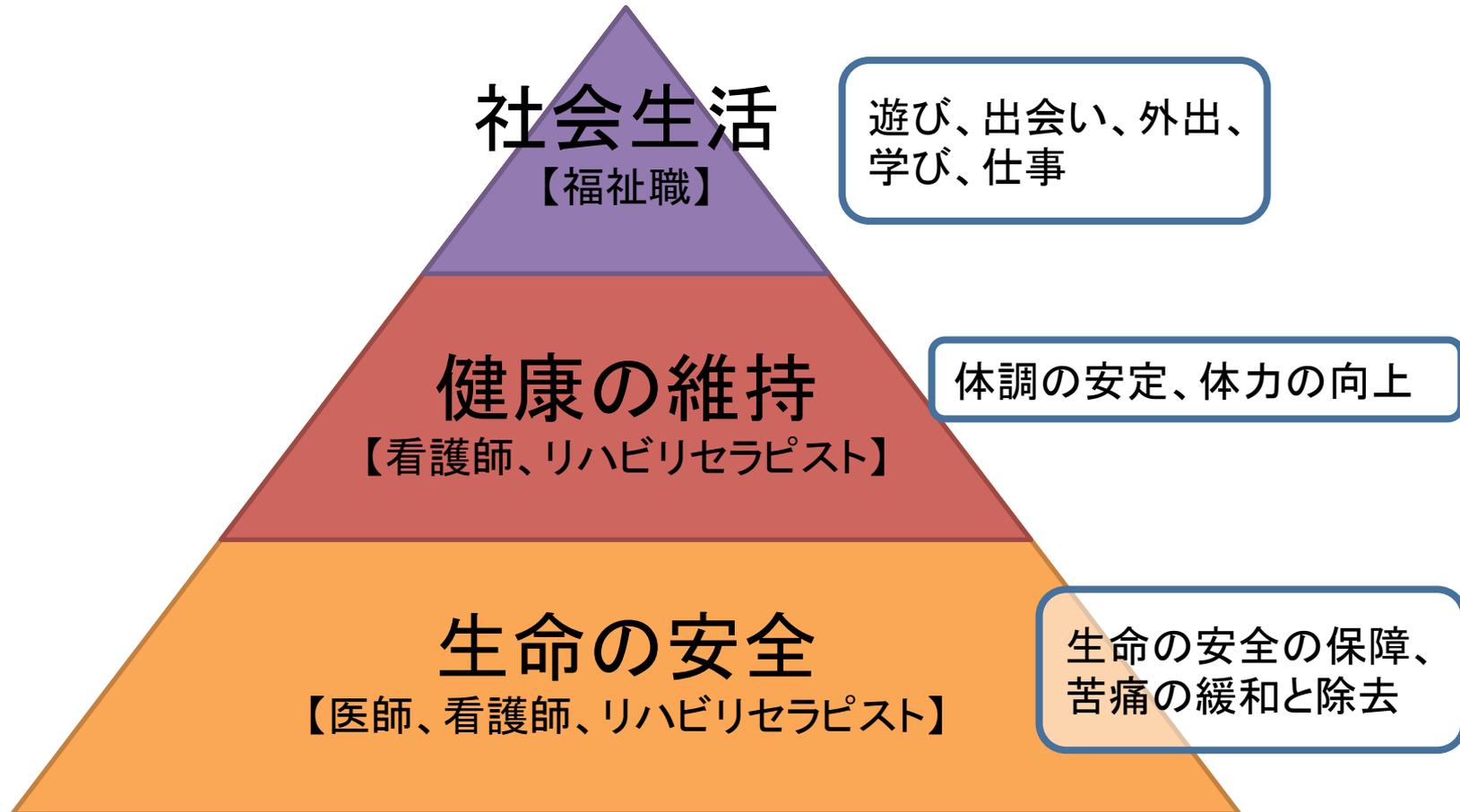
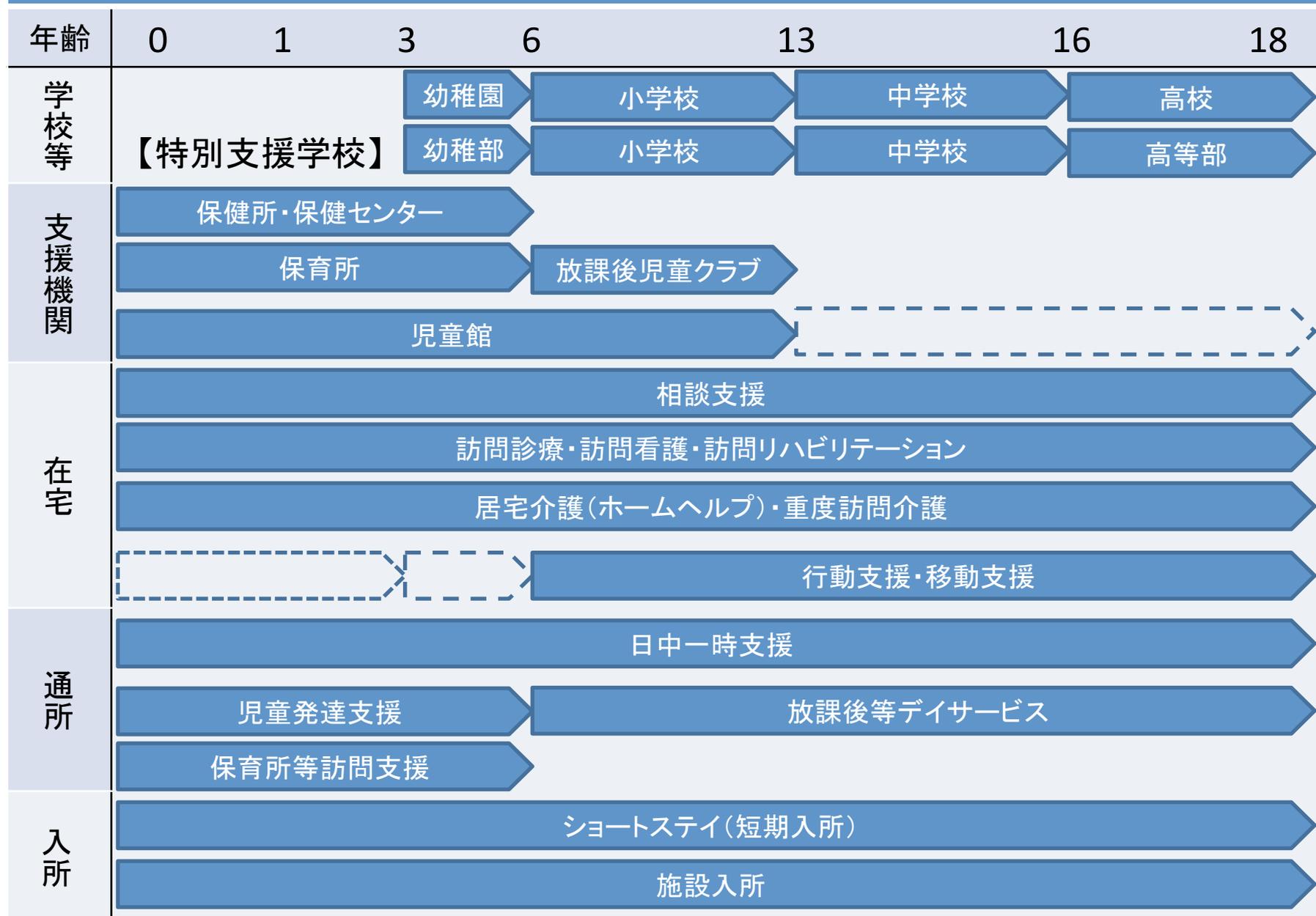


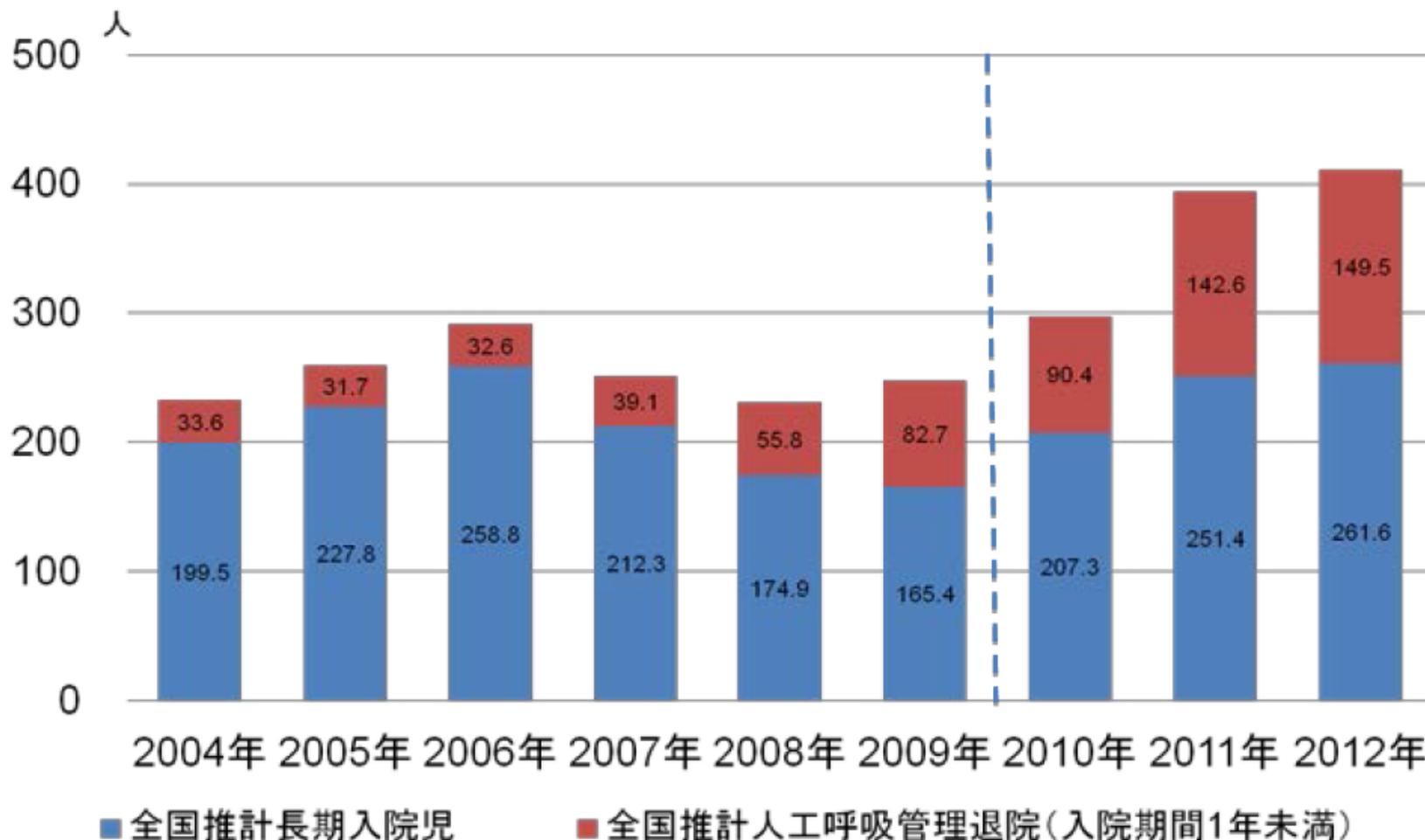
子どもの生活を支える要素



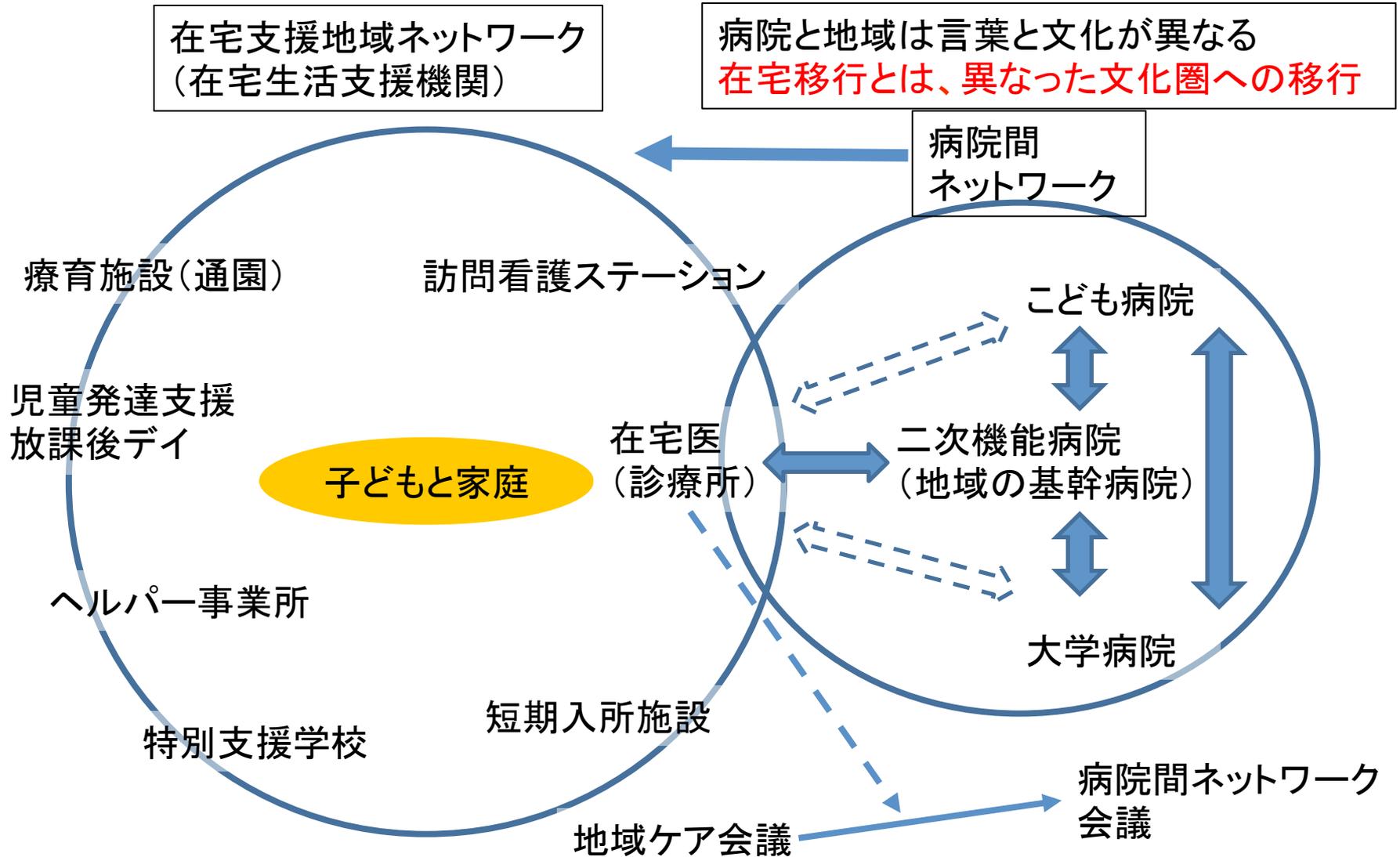
子どもの発達と社会資源



長期入院児と退院時人工呼吸管理児 の推定全国推移



小児在宅医療における地域包括ケアシステム構想における在宅移行



小児在宅医療の特徴

医療的側面	成人に比較して障害の程度が重く、医療的管理が濃厚 症例が少なく診療できる医療機関が少ないため、広域での展開を考慮する必要がある
社会的側面	小児在宅医療を支える社会資源の貧弱さ 小児在宅医療に対する社会的認知度が低い 障害を持つ子どもの教育の問題とのかかわり コーディネーターの不在(母子保健ケアマネジャー)
家族にかかわる問題	主介護者である親が児の管理に熟練しており、医療者への要求水準が高く、医療者の介入が困難
終末期ケアにおける問題	両親の長期にわたる介護、わが子を失う葛藤に対面しなければならない 子どもを失う親に特有な病意的悲嘆への対応



見えてきた課題

- 医療的ケアが必要な子どもは親と別々の時間を持ちづらい。
- 親子で交流したり、他者と安心して過ごせる場が少ない。
- 情報を得たり、相談できる**コーディネーターが曖昧。**
- 疾患や成長に応じた社会保障制度と学齢期後も安心して暮らせる場所や**生活支援のコーディネート不足。**
 - ⇒ 保護者の育児・介護負担は大きく、孤立しがち



「NPO法人 なかのドリーム」 設立趣旨

- 新生児医療や高度集中医療の発達により、重症の子ども達を救命できるようになってきた一方で、医療的ケア（痰の吸引や経管栄養など）を必要とする重症心身障害児（者）が近年増加している。しかし地域の支援基盤は不足し、実態もあまり周知されていない。
- そこで地域のネットワークを活かし、重症心身障害児とその家族が安心して暮らせる地域社会をつくるための支援事業を行うこととした。



「NPO法人 なかのドリーム」

2015年4月設立

「おでんくらぶ」で培ってきた医師・看護師・ボランティア・保護者同士等の多様な地域のネットワークと「当事者が支援者であり、支援者が当事者である」という長所を利用して、さらに活動を発展させる。

- ・放課後等デイサービス & 児童発達支援事業(2015年8月開所)
- ・定員5人の小規模多機能施設「おでんくらぶ」
- ・保護者同士の情報交換や気楽に相談にのれる拠点作り
- ・福祉車両での送迎

NAKANO dream



「なかのドリーム」を応援してください！

- 寄付で応援

医療的ケアのある子ども達に必要な医療機器や設備を整えるために、ご寄付をお願いします。

- 賛助会員として応援：賛助会費 年間 1口 1万円(何口でも)
- 職員(看護師・児童指導員・保育士・機能訓練士など)募集中